

官版

語彙活語指掌

完

814

ゴ  
完

明治四年十一月刻

# 語彙活語指掌

編輯 寮

言語のたらしめをいふことあり其の詞の活用と辭の

運用とをいふことあり詞と云ふはわらわらしくち又わらわらしく

あはれあはれなるをいふことありと接ぎさきとちと接ぎの中

にを連用しといふはわらわらしくも用言たるをいふことあり

下條ホ赤の類あり辭と云ふはわらわらしくしらばひのな

かをいふもの類ありわらわらしくいふことありわらわらしく

ばをいふてらふたことば辭なり餘はなをいふことあり

辭の運用のこと又其意味等ハ別記小解を

詞の活用の數十種あともまの十種を示す第四段

活用第二段活用第三中二段活用第四下二段活用第五

活語指掌

吾彙活語指掌

第四段活用

加行變格活用第六佐行變格活用第七奈行變格活用第八  
 良行四段一格活用第九くーき活用第十去くーき活用  
 等の十種 第一より第八までを作用一言と  
 第九第十を形状言といふなり  
 語學せむとありのて十種活用の順序を上より下(縦)より  
 左より右(横)よりふかむべしそのよもぶりのさかむべきさく  
 さけ(き)さき(き)さく(き)お(き)お(き)お(き)え(き)う(き)う(き)  
 うれ(き)こ(き)く(き)く(き)せ(き)す(き)す(き)い(き)い(き)  
 ん(き)ぬ(き)ぬ(き)あ(き)あ(き)あ(き)あ(き)あ(き)あ(き)あ(き)  
 あ(き)あ(き)あ(き)あ(き)あ(き)あ(き)あ(き)あ(き)あ(き)あ(き)  
 あ(き)あ(き)あ(き)あ(き)あ(き)あ(き)あ(き)あ(き)あ(き)あ(き)

第二段 一段活用

本書活語の下ふカキクケたどるまゝたるが即こをなり

さ(か) <small>将咲</small>	お(さ) <small>将押</small>	た(た) <small>将立</small>	あ(こ) <small>将逢</small>	す(ま) <small>将住</small>	ふ(ら) <small>将降</small>
さ(き)	お(し)	た(ち)	あ(ひ)	す(み)	ふ(り)
さ(く)	お(す)	た(つ)	あ(ふ)	す(む)	ふ(る)
さ(け)	お(せ)	た(て)	あ(へ)	す(め)	ふ(れ)

カ	サ	タ	ハ	マ	ラ
キ	レ	チ	ヒ	ミ	リ
ク	ス	ツ	フ	ム	ル
ケ	セ	テ	ヘ	メ	レ

将着 (き) ぬ (む)

着 (き) ぬ (む)

着 (き) ぬ (む)

キ

ニル

ニレ

将居	将射	将見	将干
わむ	ひむ	みむ	ひむ
居	射	見	干
わ	ひ	み	ひ
居	射	見	干
わ	ひ	み	ひ

本書活語の下ふキキルキレなど、あつたるが即こもなり

第三 中二段活用

将恨	将戀	将落	将起
らみむ	こひむ	おちむ	おきむ
恨	戀	落	起
ら	こ	お	お
ら	こ	お	お
ら	こ	お	お
ら	こ	お	お

ミ	ヒ	チ	キ
ム	フ	ツ	ク
ム	フ	ツ	ク
ム	フ	ツ	ク

下	下	下	下
り	る	ら	れ
り	る	ら	れ
り	る	ら	れ

リ	イ
ル	ユ
ル	ユ
ル	ユ

本書活語の下ふキククルなど、あつたるが即こもなり

第四 下二段活用

将添	将寝	将捨	将瘦	将受	将得
そむ	ねむ	てむ	せむ	うけむ	えむ
添	寝	捨	瘦	受	得
そ	ね	て	せ	う	え
そ	ね	て	せ	う	え
そ	ね	て	せ	う	え

へ	ネ	テ	セ	ケ	エ
フ	ヌ	ツ	ス	ク	ウ
フル	ヌル	ツル	スル	クル	ウル
フル	ヌル	ツル	スル	クル	ウル

ほめ	響	ほ	響	ほ	響
き	消	き	消	き	消
か	枯	か	枯	か	枯
う	植	う	植	う	植

本書活語の下ふエウウルレとあるはつきたるが即ちまをり

第五 加行變格活用

こ	来	こ	来	こ	来
き	来	き	来	き	来
く	来	く	来	く	来
くる	来	くる	来	くる	来
くれ	来	くれ	来	くれ	来

本書活語の下ふコキククルクレとあるはつきたるが即ちまをり

第六 佐行變格活用

せ	為	せ	為	せ	為
す	為	す	為	す	為
する	為	する	為	する	為
すれ	為	すれ	為	すれ	為

本書活語の下ふセシススレとあるはつきたるが即ちまをり

第七 奈行變格活用

い	往	い	往	い	往
ぬ	往	ぬ	往	ぬ	往
ぬる	往	ぬる	往	ぬる	往
ぬれ	往	ぬれ	往	ぬれ	往

本書活語の下ふナニヌヌレとあるはつきたるが即ちまをり

第八 良行四段一格活用

あ	有	あ	有	あ	有
り	有	り	有	り	有
ある	有	ある	有	ある	有
あれ	有	あれ	有	あれ	有

本書活語の下ふラリルレとあるはつきたるが即ちまをり

作用言のうち第三中二段活用第四下二段活用第六佐行變格活用等ふいふくと今と活用のたがひあり今といふは俗言の活用あり

エ	レ	エ	メ
ウ	ル	ユ	ム
ウル	ル	ユル	ムル
ウレ	ルレ	ユレ	ムレ

コ	キ	ク	クル	クレ
---	---	---	----	----

セ	シ	ス	スル	スレ
---	---	---	----	----

ナ	ニ	ヌ	ヌル	ヌレ
---	---	---	----	----

ラ	リ	ル	レ
---	---	---	---

中二段活用俗言格

おき	おち	こひ	うら	お	お
將起	將落	將戀	將恨	將老	將下
おき	おち	こひ	うら	お	お
起	落	戀	恨	老	下
お	お	こ	う	お	お
起	落	ヒル	ヒル	イル	イル
お	お	こ	う	お	お
起	落	ヒレ	ヒレ	イレ	イレ

キ	チ	ヒ	ニ	イ	リ
ク	ツ	フ	ム	ユ	ル
キル	チル	ヒル	ヒル	イル	イル
キレ	チレ	ヒレ	ヒレ	イレ	イレ

本書活語の下小キクキルキレたどるあきつたるが即こまたり  
 圖面におおきおくをひら假字のてあきつたるのふりも今もかゝるこまたり  
 さるをおくるを今おキルといふ俗言をまばらふ圖にてあきつる

下二段活用俗言格

え	せ	す	や	う	う
將得	將瘦	將捨	將瘦	將受	將植
え	せ	す	や	う	う
得	瘦	捨	瘦	受	植
エ	セ	ス	ヤ	ウ	ウ
得	瘦	捨	瘦	受	植
エ	セ	ス	ヤ	ウ	ウ
得	瘦	捨	瘦	受	植

エ	レ	エ	メ	ヘ	ネ	テ	セ	ケ	エ
ウ	ル	ユ	ム	フ	ヌ	ツ	ス	ク	ウ
エ	ル	エ	ル	ヘ	ネ	テ	セル	ケル	エ
エ	レ	エ	メ	ヘ	ネ	テ	セル	ケレ	エ



作用言總圖

白字をくは活用ざる  
あろしをり

阿行 <sup>ア</sup> <sub>ギヤウ</sub>

加行 <sup>カ</sup> <sub>ギヤウ</sub>

佐行 <sup>サ</sup> <sub>ギヤウ</sub>

多行 <sup>タ</sup> <sub>ギヤウ</sub>

奈行 <sup>ナ</sup> <sub>ギヤウ</sub>

あ

い

う

え

を

か

き

く

け

こ

さ

し

そ

せ

そ

た

ち

つ

て

と

な

に

ぬ

ね

の

和行 <sup>ワ</sup> <sub>ギヤウ</sub>

良行 <sup>ラ</sup> <sub>ギヤウ</sub>

也行 <sup>ヤ</sup> <sub>ギヤウ</sub>

麻行 <sup>マ</sup> <sub>ギヤウ</sub>

波行 <sup>ハ</sup> <sub>ギヤウ</sub>

は

ひ

ふ

へ

ほ

ま

み

む

め

も

や

ゆ

よ

ゆ

よ

ら

り

る

れ

ろ

わ

わ

わ

わ

わ

良行四段格

四段

四段

四段

一段

中二段

中二段

中二段

中二段

一段

中二段

中二段

中二段

中二段

下二段

下二段

下二段

下二段

下二段

佐行變格

加行變格

奈行變格

一段

中二段

下二段

下二段

次ツギに活語指掌圖をあらはして示すそのゆゑに上カミにおぼ  
 たる作用言總圖をおぼえ得たらむのち形状言のあ  
 らまゝをもおぼえむがためなり作用言と形状言とを  
 志シらうむに活イカラクキ用ヨウごま一口たりひをふごころひことならざ  
 らむこそこの圖をよみおぼえむふつきいこころうべき  
 ことあり將然言とあるせるその朱線スジのこころまるかぎ  
 りあるあらむとす詞をりまゝさのむおむじとやうふ  
 むの辭テラハスをそへくるいさかとのをひてい詞とものとすま  
 よとつぐるよたよりもひらうこれに將然言のうぎうひ  
 こころぐむの辭テラハスをそへたりかくざまよとたりひ得む

れのづから將然言の意もとやくあらむと人とおぼれ  
 ばぞうし次ツギに連用言といふに用言より用言へづく詞ある  
 ことをあらしむこの詞よりわかれ用言へつくす さこのふらふおこのやるとその詞  
 こころおあらしたるをよみつけてあぢひあるじ終止言と  
 いふに語意こころをいひをるたり連體言といふに用言よ  
 り體言よ法づく詞をりかゆあよかくいふあり この詞よりわかれ體言へつくかを  
 さのこの花おの車と體言へいひつぐるをいふその詞ごとり  
 あるしたまふよみつけてあぢひあるじ已然言といふ  
 へまよあうたりたることをいふ詞あり花をいふの車このを  
 こをおこのといひ又花さの車をおこのばたどの類たり た

花さの車をおせどりんバ希求言、使令言とちうて又其意異をもと  
こまをひとたびよをいふまへかへりてまうとふむをばくふいそす  
この

將然言、連用言、終止言、連體言、已然言、を詞の五階と名  
づかしてこの五階を四段活用よりての終止と連體とをか  
ねく圖す一段活用中二段活用下二段活用よりての將然  
と連用とをかねて圖す  
良行四段一格ハもとより連體と終止とをか係するなり  
畧圖せるああら  
とあるべし

活語指掌圖

將然言 連用言 終止言 連體言 已然言

朱線のふらふら己たまるるところハ兩階  
かひよりとあるべし

第三段	第二中	第一	第四
下老恨戀落起	居射見干似著	降住逢立押咲	
ひひひひひひ	ひひひひひひ	ひひひひひひ	ひひひひひひ
かきつりかきかき	かきつりかきかき	かきつりかきかき	かきつりかきかき
るるるるるる	るるるるるる	るるるるるる	るるるるるる
るるるるるる	るるるるるる	るるるるるる	るるるるるる
人人身事人兼人	人人身事人兼人	人人身事人兼人	人人身事人兼人
るるるるるる	るるるるるる	るるるるるる	るるるるるる



上小擧たる指掌圖をよくよとあぢらひむつたゞ其俗意  
 を志らざるすまやかふ心得ごとくさるふよりそ十種活用おし  
 たるく俗意をあてて童蒙のたよりとす但し連體言の  
 結詞ケヒコト 結辭結と係辭係をむまぶとたの名なりされどそめこと今こふ  
 ことすすたるつとめて圖面の俗意をまをを要とれりふべし小なれ  
 るをの俗解せりさるいざ○花お○車なるといひつくる  
 類のいふべし今もかゝることなくしと別小俗解をくも  
 あらざるべどかりし  
 又こふ心づきこと終止言をかり小○と記して示す連體言の  
 重と記して示すを四段活用一段活用へ終止と連體とを  
 加録て圖せれば早く見らむむめたりとよく讀て味あるべし

段四行加

將然さかむ

サウウ

連用さきにけふ

終止さく

サキマス

已然さけ

サイタマア

ゆふゆふとわが答ふな  
つごがややとく一兩日  
のうらふ花がサウウ

今日の花がさかむや  
夕ささるにやひマス

風はさむむに花ハ  
サキマス  
あつらういら花  
がわらわのやう小  
サクワイ

きのしとを花ハサイ  
タガマア

段四行佐

將然おきむ

オウウ

連用おにやる

終止おむ

オレマス

已然おせ

オレガマア

ての車いたいさうあひ  
車チヤロをもてなう  
くオウウ

たりの車とみあつや  
やうくつこととあや  
りマス

道がらういさ車ハ  
オレマス  
あひの車チヤガわれ  
おのやうオスワイ

よとそこの車ハ車  
オレタガマア

段四行多

將然たむ

タウウ

連用たむとる

終止たむ

タチマス

已然たて

タチガマア

かう風が吹てはものをも  
見て居らるもをい  
サアくと命くタウウ

何事の出来たやらん  
おの人の見物やまう  
けてたむとるマス

物をまて居られ  
たひとるハタチマス  
○見たくハハハハハ  
からとまてのやう小  
タツワイ

其場をくたありと  
てあららるタツタガ  
マア

段四行波

將然あはむ アのウ  
ゆるくささきたい  
ことあむるぢヤリウ  
明日茶屋くア  
ウ

連用あひみる  
とぞんあをぬこ  
と思うたが今日ハ  
らそくあひみ  
ス

終止あふ  
アヒマス  
アフワイ

已然あひ  
アヒカマア

段四行麻

將然まむむ スウウ  
このやうなさい  
家あ永く居る氣  
あつたマアチヨツと  
スウウ

連用まみまろ  
住まもるだけけの  
家小住で居くいけ  
なくまむむす  
てマス

終止まむ  
スミマス  
スムワイ

已然まめ  
スミカマ

段四行良

將然ふらじ フウウ  
たいさう雲か出く  
来たぢヤやて大雨ダ  
フウウ

連用ふるくろ  
まろくろ小をつて天  
雨ふるくきマス

終止ふる  
フリマス  
フルワイ

已然ふれ  
フツカマ

段一行加

將然きむ キヤウ  
秋風がたうくゆらうま  
しくなるたぢヤ裕を  
ウ

終止きる  
キルワイ

已然きる  
キタカマ

段一行奈

將然ひむ ヤウ  
先生のねをひを見せら  
うら後小いウヤウ

終止ひる  
ニルワイ

已然ひる  
ニタカマ

段一行波

將然ひむ ヤウ  
大さうさい天をチヤこの日  
よりをらひウヤウ

終止ひる  
ヒルワイ

已然ひる  
ヒタカマ

段一行麻

將然 (み) び  
その書もみくこい書物チヤタ  
今日の見らるぬ明日の(3)ヤウ  
連用 (み) わきさらひる

終止 (み) び  
今日ひまチヤホよつこ  
書をミマス  
重此書いれりろい書チヤ  
からこそこのやうふイルワイ

已然 (み) び  
今日こそあくす書物  
ミタガマア

段一行也

將然 (み) び  
弓を射たいのチヤガのて  
かーとたふぬひまを見て  
①ヤウ  
連用 (み) とほま

終止 (み) び  
下手であるが尺貳の的  
なるイルマス  
重選着小なればかひ鳥  
ルこそこのやうふイルワイ

已然 (み) び  
尺貳の的ふあまをこと  
やうくイタガマア

段一行和

將然 (み) び  
弓勢とあふりのいかにまろい  
のチヤ描る甲の(3)とほ  
マス  
連用 (み) つく

終止 (み) び  
御家の奉公めをこと  
いれこそこのやうふイル  
ワイ

已然 (み) び  
よく奉公をせよと十年  
なすりも牛タガマア

段二行加

將然 (み) び オチヤウ  
最早夜うあけ(3)チヤ  
①キヤウ  
連用 (み) いづる

終止 (み) び  
夜があをたおもオキ  
マス

已然 (み) び  
用事うあせばら  
早くオキタガマア

段二行多

將然 (み) び オチマウ  
柿うたし(3)うん  
来たチヤ探らそお  
いたうオチヤウ  
連用 (み) つめる

終止 (み) び  
風がふのうら柿  
オチマス

已然 (み) び  
昨夜の天風うつ  
まはこそ今朝柿  
たこそオチンガマア

段二行波

將然 (み) び コヒヤウ  
子供ふあをふなふ  
な(3)ならきたう  
コヒヤウ  
連用 (み) ひかむ

終止 (み) び  
あひ糸(3)と人を  
コヒマス

已然 (み) び  
あまたう御出  
まはこそ今朝柿  
たこそオチンガマア

段二行中

連用 (み) ひかむ  
親のあひ子(3)を  
うチヤ時(3)た(3)ひ  
て(3)ひかむ

連用 (み) ひかむ

連用 (み) ひかむ

段二中行麻

將然らら(み)ウラヤウ  
かうあぐくたおまか  
いん居こたためく  
ウラヤウ

終止らら(む)ウラマヌ  
ららむふらとりのせも  
こころいウラマヌ

連用らら(み)ねりふ  
夫の心が薄情チヤと  
みえて女房が毎日々々  
ウラヤウひマス

終止らら(れ)ウラマヌ  
あまが不實ゆゑ  
こころいこまこま  
かう小ウラミルワイ

段二中行也

將然(か)ウウ  
このやう物心配し  
たるら顔かこころも  
オのヤウ

終止(か)ウイマス  
年がとるのいとめ  
かういなるオイマス

連用(か)かままる  
つよい男であつたが  
年がとる腰が三重  
小かかまきマス

終止(か)ウイマス  
年がとるおれ  
を物チヤあまの  
かう小オイルワイ

段二中行良

將然(か)ウウ  
さむい風がくくも  
二階からオのヤウ

終止(か)オリマス  
只今二階の御用が  
まゝ次第をまゝオ  
リマス

連用(か)かままる  
つよい男であつたが  
年がとる腰が三重  
小かかまきマス

終止(か)オリマス  
二階の萬事不自由  
チヤとみえまわれ  
あのかう小とま  
オリルワイ

段二下行阿

將然(え)ウウ  
今年の商法をよく  
利してたぐさんふ利  
をウヤウ

終止(え)エマス  
商法がよのうら利を  
エマス

連用(え)をむる  
商法をよくするゆゑ  
今年ハ正月から利  
をウヤウ

終止(え)エマス  
商法がよのうら利を  
エマス

段二下行加

將然(け)ウウ  
今銀でいたたかき  
をい品物をうらウ  
ヤウ

終止(け)ウケマス  
品物チヤからア  
マス

連用(け)ウウ  
今銀でいたたかき  
をい品物をうらウ  
ヤウ

終止(け)ウケマス  
品物チヤからア  
マス

段二下行佐

將然(せ)ウウ  
代料をうらひられ  
品物チヤよらう  
りゆ

終止(せ)ヤセマス  
夏ふらふのうらりの  
くせくヤセマス

連用(せ)ウウ  
代料をうらひられ  
品物チヤよらう  
りゆ

終止(せ)ヤセマス  
夏ふらふのうらりの  
くせくヤセマス

連用(せ)かままる  
夏ふらふのうらりの  
くせくヤセマス

終止(せ)ヤセマス  
夏ふらふのうらりの  
くせくヤセマス

連用(せ)ウウ  
夏ふらふのうらりの  
くせくヤセマス

終止(せ)ヤセマス  
夏ふらふのうらりの  
くせくヤセマス







活き用

連用かな (1) おもふ  
情ふせまれば涙がこぼ  
れてかな (2) おもひ  
マス

終止かな (3) カナシヤ  
情ふせまればカナシ  
イザヤ

連体かな (4) カナシヤ  
情ふせまればこれの  
かなしカナシイワイ

已然かな (5) カナシヤ  
情ふせまればこそ  
かなしいらうカナ  
シイガマア

形状言くーき活用の詞のあつゝ本書活語の條下小ク

シキシクシシキとあつゝたつゝ省畧せよ小クシキケレ

シクシシキシケレとつゝごさなるもどめさすてあまうこ

とあげくならまてつらむけまひとらつとあか心得

てえんぐー

○この書本書活語の條下ふあるせる活用をたやま

ささむとてかく圖ふあらませりこれをさうくあき

らぬくのち別記をえんぐー別記をうくんあき

らむる時の詞コトバの活用辭テニラハの運用ともふあきらかふ

あつゝあつゝ

詩集

明治十七年十月一日  
翻刻御届  
明治十七年十月  
翻刻出版  
東京府平民  
本間喜知  
日本橋區馬喰町四丁目拾七番地



明治十七年十月一日  
翻刻御届  
明治十七年十月  
翻刻出版

東京府平民

翻刻人

本間喜知

日本橋區馬喰町四丁目拾七番地

日本橋區横山町貳丁目

内田彌兵衛

全區青物町

内田芳兵衛

全區大傳馬町二丁目

田中和助

發兌

